時間表現に関する対照言語学的研究：日本語と英語，ハンガリー語，トクピシン

野瀬昌彦

1. はじめに

本研究では，時間に関する表現（動詞に関与する時制やアスペクトを除く）に注目し，特に名詞や副詞，その他語彙的表現等，さまざまな時間を表す使用される形式が，対照する言語間で共通点があるかどうかを検討する．

- 用紙：A4，縦置き，横書き
- 上マージン：35mm
- 下マージン：30mm
- 左右マージン：それぞれ 25mm
- 表題はゴシック体 18pt，氏名は明朝体 16pt.
- 見出しの第一レベル，「注」，「参考文献」：ゴシック体 11pt
- キーワード，第 2 レベル以降の見出し，本文，注，参考文献：明朝体 11pt.
- 使用言語は基本的に日本語でお願いしますが，希望者は英語でも構いません
- 文字数：和文及び和文欧文混在の原稿で 1 万から 1 万 2 千字以内（A4 だと 10 枚から 12 枚程度か）
- 行数や字数については特に指定はありません．フォントの大きさを 11pt にし，1 万字から 1 万 2 千字であれば，レイアウトは自由とします
- 英語で執筆，英語等外国語の例文等は，明朝の部分は Times 系フォント(Times New Roman など)，ゴシック体の部分はボールド系フォント(Arial など)でお願いします

2. 時間表現の種類と時間と場所の意味関係

注

＊　本研究は麗澤大学言語研究センター2010 年度共同研究プロジェクト「フィールドで得られた言語データの電子化とその分析：パプアニューギニアとドイツ」による援助を受けて行われている．

1. 時格”-kor”はハンガリー語の格を 20 以上存在するとみなす研究では格として分類されるが，最近優勢である 18 格とみなす場合，18 格の中には入らない．例(4b)で示す配分格も 18 格には入らない．両者は派生接尾辞としてみなされるが，本研究では時格，配分格と呼び，例外的に格形式としてみなすことにした．

参考文献

Bennet, David C. 1975. *Spatial and temporal uses of English prepositions: an essay in stratificational semantics*. London: Longman.

連絡先　野瀬昌彦　277-8686　千葉県柏市 2-1-1 麗澤大学外国語学部　mnose@reitaku-u.ac.jp